

# 耐久性の木材 生産能力倍増

九州木材工業(福岡県筑後市、角博社長)は、耐久性木材の生産能力を現在の2倍に引き上げる。10月までに1億円を投じ、木材を保存剤で処理する施設を本社に増設する。自治体の公共施設向けなどに受注が増えていることに対応、売上高に占める耐久性木材の売り上げの割合を現在の1割から約2割に高める考えだ。

## ベンチや手すり 受注拡大

木材に保存剤を浸透させる装置などを備えた施設(延べ床面積約300平方メートル)を増設する。処理能力は年間1500立方メートル。既存施設と合わせ

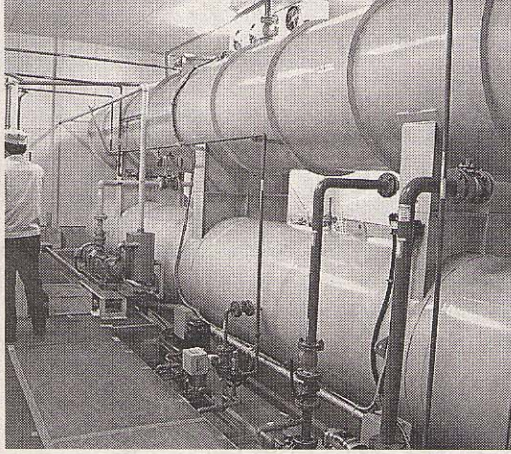
て、耐久性木材の生産能力を倍増、年間3千立方メートルに引き上げる。同社の木材保存剤「エコアコール」は水溶性フエノール樹脂の溶剤。木材に加圧浸透させ高温乾燥処理することで硬化、腐食や乾燥によるひび割れなどを防ぐ。一般的な保存剤と異なり、殺虫成

分など有毒成分を含まない。福岡県工業技術センターや九州大学と1997年に共同開発した。保存剤で処理した木材「エコアコールウッド」は耐久性などが評価され、2005年の愛知万博でガスパビリオンの外壁に使われたほか、厳島神社や金沢城などの文化

財の修復材に採用された実績を持つ。最近では自治体の公園のベンチや手すり、建物外壁など公共施設向けを中心に出荷が拡大。2011年11月期の売上高は前年比2割増の約2億5千万円だった。処理施設は「ほぼフル稼働の状態」(角社長)が続いていたことから、施設の増強を決めた。九州木材工業は193

0年設立で、2011年11月期の売上高は約27億円。エコアコールウッドの製造販売のほか、主力事業として九州電力の電柱や電線の保守点検を手掛ける。

## 九州木材工業



木材保存剤「エコアコール」は木材の細胞を固め腐食やひび割れを防ぐ。(福岡県筑後市の保存処理施設)